

「ありがとう！ 香川大学」

(教育・昭和58年卒・高松市立庵治小学校・大西えい子)

香川大学は私の大好きな場所である。「香川で教員になるなら、香川大学」高校時代に
そう言い聞かされて香川大学に入学し、研究室やサークルの仲間と共に楽しい学生時代を
過ごした。それから20年後、大学院生として再び香川大学に通ったときには、自分の知
らないことの多さに驚いたり、学ぶことがこんなに楽しいことだったのかと感じたり。ま
た、小学生と離れて学ぶ中で、自分は子どもたちから日々エネルギーをもらっていたんだ
ということに改めて気付いたりできた。本当に有意義な時間であった。

学生時代に卒論指導をしていただいた井上タツ先生には、卒業後も食の教育に関してお
世話になった。「身土不二」という、その土地で生活する者には郷土の食材や料理法を活
かした食生活が望まれることを教えていただき、大いに共感し、郷土の野菜「まんば」を
教材にした学習に繰り返し取り組んだ。大学院時代にお世話になった山下智恵子先生には、
「生活の中で、今まで気付かなかったことに気付くようになる。見えなかったものが見え
るようになる。」という家庭科教育の楽しさや、自分の実践を振り返ってまとめる大切さ
を学んだ。学ぶ子どもの姿から実践を振り返ることは、興味深く楽しかった。先生と共に
学会で発表できたことも、私にとって大きな財産である。

平成22年度から交流人事教員として香川大学に勤務できた4年間、大学の内部事情や
学生さんたちの様子がよく分かった。大学の先生方は皆さん個性豊かでユーモアに溢れ、
素晴らしい研究者であり教育者である。学生時代にはそのことに気付けておらず、もった
いなかったと心底思った。大学は時代の流れに添った改革の渦の中だった。そのような中
で学生さんたちは自分の将来を思い描き、前向きに一生懸命頑張っていた。私は、学内で
松楠会の役員もさせていただき、そのおかげでパワフルで優しい諸先輩方にお目にかかる
ことができた。香川大学には、「未来からの留学生」「音読名人」「キャンパスでの秋見
つけ」など、毎年多くの小学生が訪れる。また、卒業した若い先生方が集う機会もある。
彼らは採用試験に向けて頑張っている4年生に、励ましの言葉やアドバイスも贈っていた。

師弟関係、先輩・後輩の関係が保たれ、地域にも開かれ、時代に合わせて進化し続ける
香川大学。私は、ますます香川大学が大好きになった。「ありがとう、香川大学」と心か
ら感謝したい。この感謝の気持ちを忘れず、夢に向かってチャレンジできる子どもの育成
や若い教職員の育成に努めていきたい。